

SDGs TO TAJIRI 学校×地域・役場連携

田尻町立中学校

Why

なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- [生徒] ●与えられた課題には一生懸命取り組むが、自ら課題を見つけ、解決に取り組む姿勢が乏しい。（受動的）
●初めての環境や、初めての相手になると自分の考えをうまく伝えられない。（消極的）
- [教職員] ●学年の取組みが学校全体の取組みになっていない。
●コロナ禍により様々な教育活動が制限されたことから、再度カリキュラムを見つめなおし、カリキュラム・マネジメントする必要があった。
- [地域] ●様々な体験活動や行事で学校と地域が関わりをもってきており、さらに地域人材等の活用を進めたいと考えた。

How

どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- [生徒] ●企画・実践・解決・逆境力・社会的実践力を培うために、学校を飛び出し、地域人材を活用した。
●地域社会で起きている課題を見つめなおし、「田尻町のために私たちは何ができるか」「他者と協力して何ができるか」「学校で何ができるか」という観点で、役場・地域・企業と協働しながら互いにアイデアを交換し、課題解決に向けて活動した。
- [教職員] ●校務分掌を見直し、カリキュラム・マネジメント担当教員を配置した。カリキュラム・マネジメント検討会議を定期的に開催し、検討・共有を図った。
●つきたい力を共有し、教科等横断的な視点から授業改善を図った。

Change

どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- [生徒] ●課題を見つけ、その課題のためにどんなことができるか考えるようになった。
●課題学習に対して、グループで積極的に協力するようになった。
●「自分の考えが実現する」成就感から、更なる活動へ繋がった。
- [教職員] ●生徒のアイデアを尊重し、生徒主体の授業づくりを意識できるようになった。
●子どもにつきたい力を意識した授業づくりができるようになった。
●学年の枠を超え、子どもたちの取組みに対して協力してくれるようになった。

1.はじめに

(1)本校生徒の実態から つけたい力の育成に向けて

○本校の教育目標（めざす子ども像）

自立「自ら学び、自ら考え判断し、行動する生徒」

友愛「互いを思いやり、協力し、自他ともに高めようとする生徒」

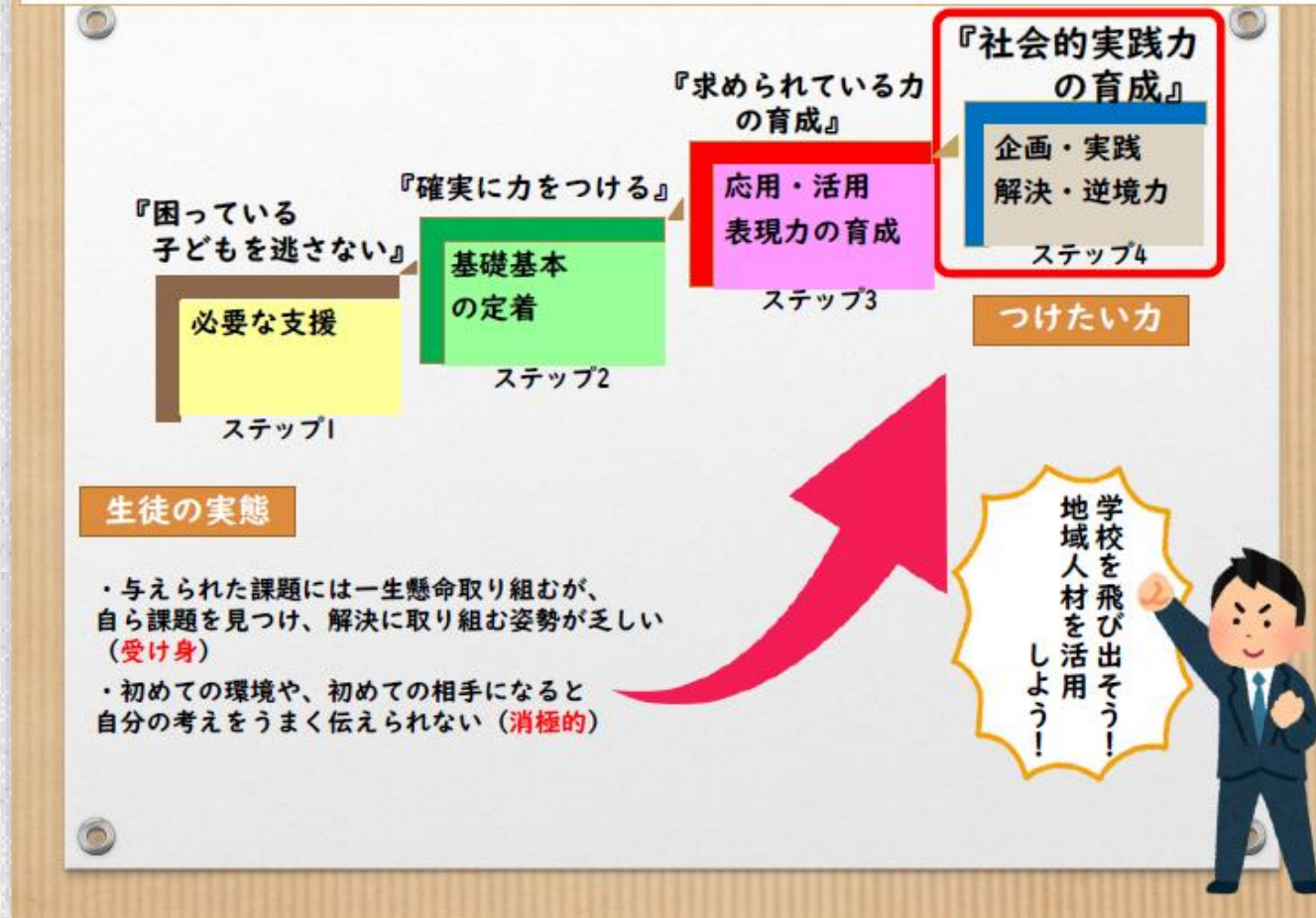
○生徒の実態

本町は保育所、幼稚園、小学校、中学校が1か所ずつという環境にあり、子どもたちは限定的かつ閉鎖的な人間関係の中で義務教育修了までを過ごすことになる。そういった環境も相まって子どもたちは、初めての場所や相手といった環境におかれると自分の考えや意見を伝えられないといった消極的・受動的な姿勢がよく見られた。そういった実態から、探究学習を充実させ、つけたい力を逆境力・社会的実践力とし教職員全体で共有を図った。

○研究テーマ

社会に開かれた教育課程の実践から、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究として、右記の通り研究テーマを設定した。

カリキュラム・マネジメントをすすめるにあたって



<研究テーマ>

「逆境力（壁にぶつかったとき、自分の力や他者と協力しながらのりこえられる力）の育成」
「社会的実践力（義務教育を終え、社会に出たときに生きて働く力）の育成」

テーマ

社会に関われた教育課程の実践から、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成をめざす

内容

中学生が、地域や役場の各課と意見を交流し、SDGsの観点から田尻町が抱える現代的な諸課題について、「1.自分たちに今、何ができるか。」「2.学校全体で何ができるか。」「3.地域・役場と連携・協力して何ができるか。」という3つの視点で解決に向けて、企画・立案・提案し、実践していく。

実施概要**【第1ターン】**

- ① SDGsの17の目標について学ぶ。【5～7月】
- ② 学んだ内容から、興味のある目標を選び、課題と解決・改善策を考える。【8月】
- ③ 同じ課題意識を持った生徒同士でグループを作り、解決に向けてアイデアを出し合う。
【9月】
- ④ まとめたアイデアについての発表を行う。【10月】

【第2ターン】 ※ 第2ターン以降は、定期的に役場・地域と意見交流の場を持つ。

- ⑤ 第1ターンで取り組んだ各グループの課題と役場の各課・地域とを結びつけ、意見交流を行い、田尻町における課題について考える。【11月】
- ⑥ 課題に対して、「1.自分たちに今、何ができるか。」⇒「2.学校全体で何ができるか。」⇒「3.地域・役場と連携・協力して何ができるか。」の視点で、解決・改善に向けて議論し、企画・立案していく。【12月】
- ⑦ 企画・立案したものやアイデアを役場の各課・地域に向けて発表する。【1～2月】

【第3ターン】

- ⑧ 役場の各課・地域から意見をもらい、実施可能な内容について、実際に取り組んでいく。
【2～3月】

○取組みを進めるにあたって

キャリア教育の一環で職業体験を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となったことを受け、新たな取組みを模索する中で、SDGsの学習を行い全17の目標ごとに探究したいグループを構成し、役場の各課と連携しながら田尻町の課題解決に取り組むことで、身近な仕事や働く人と関わることができ、キャリア教育にもつながると考えたことがきっかけである。

○取組み概要

中学生が、地域や役場の各課と意見を交流し、SDGsの観点から田尻町が抱える現代的な諸課題について、

「1. 自分たちに今、何ができるか」**「2. 学校全体で何ができるか」****「3. 地域・役場と連携・協力して何ができるか」**

という3つの視点で解決に向けて、企画・立案・提案し、実践していった。

2.令和3・4年度の取組み

(1)校内体制の見直し・充実

令和2年度までに取り組んでSDGsをテーマにした探究的な学習において成果が見られたことから、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを行うこととした。それを推進していくためにも、校務分掌を見直し、カリキュラム・マネジメント担当教員を配置した。それに合わせて、カリキュラム・マネジメントの実現に向けた年間スケジュールを作成し、学校全体で取り組んでいくための指針とした。

(2)総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

令和2年度から取り組んでいるSDGsの学習を総合的な学習の時間の中心取組みとして位置付けカリキュラム・マネジメントを行うこととした。つきたい力を教職員全体で共有し、教科等横断的な視点で授業改善を図った。

○教科等横断的な視点

つきたい力について、総合的な学習の時間のみで育成をめざすのではなく、それぞれの教科担当教員が**教科の見方・考え方を働かせながら**、各教科学習と総合的な学習の時間の取組みのつながりを意識した。

右図の②では、生徒が取り組みたいテーマについてプレゼンテーションをし、各教科の担当教員が、それぞれの教科の見方・考え方をもち、コメントやアドバイスをした。生徒は、教員からのアドバイスを受けて、その後の活動の計画につなげることができた。

教科等横断的な視点について

①小グループでの企画検討



②各教科の視点から生徒へ指導

(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う

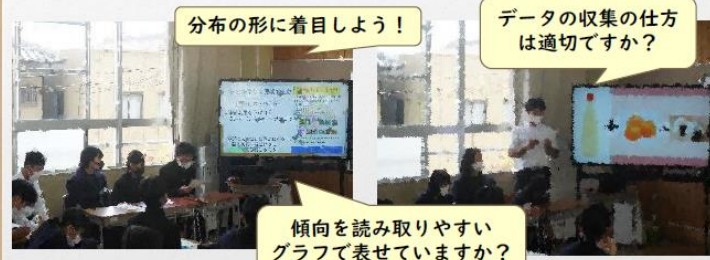


(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。

実践例：国語科の授業＋数学科の視点

教科書：光村図書
単元：説得力のある提案をしよう
めあて：説得力のある話の構成を考えよう



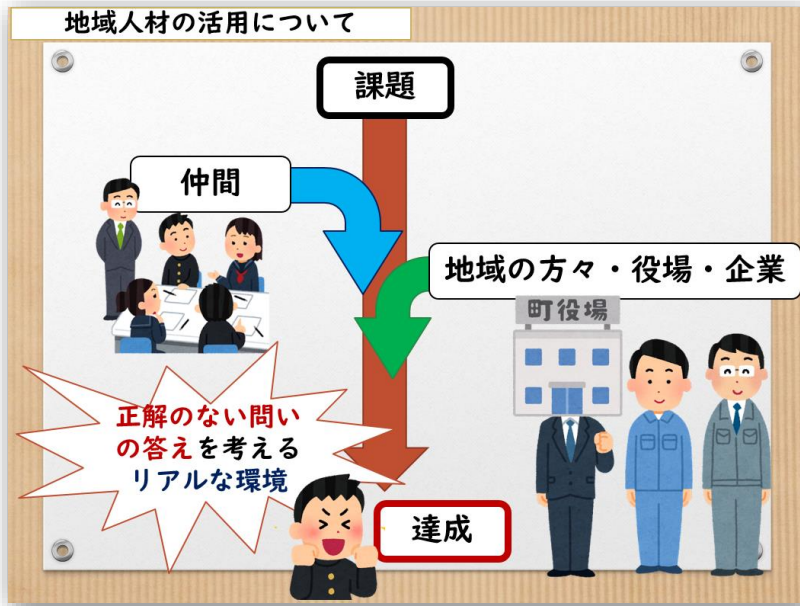
国語科の授業において、数学科の教員が「データの活用」領域での視点から生徒たちに発問する

○授業の実践例

自分たちの考えを提案するうえで、「より説得力のある説明ができるようになる」というめあてを設定した授業を展開するうえで、国語科の授業に数学科の教員が入りこみ、数学科の視点の視点を加えながら授業を行った

(3) 人的又は物的な体制の確保

SDGsの目標ごとに編成されたグループが田尻町の課題解決方法を企画・実践していくうえで、探究課題にフィットした役場、地域、企業の方々とは協働しながら取り組むこととした。正解のない答えを考えるという経験をリアルな環境で学ぶことができた。



Topics <町教育委員会による支援>

～子どもたちの課題意識から学校と役場・地域をつなげる～

子どもたちが他者と協働しながら取組みを進められるよう、課題解決に適した役場の課や地域人材を紹介し、より活発に議論ができるようコーディネートを行った。

目標	連携	目標	連携
1 貧困をなくそう	福祉課	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	観光協会
2 飢餓をゼロに	健康課 (栄養士)	10 人や国の不平等をなくそう	たじりエンゼル
3 すべての人に健康と福祉を	健康課 (保健師)	11 住み続けられるまちづくりを	都市みどり課
4 質の高い教育をみんなに	指導課	12 つくる責任 つかう責任	株式会社エコル 生活環境課
5 ジェンダー平等を実現しよう	企画人権課	13 気候変動に具体的な対策を	安全安心まちづくり推進局
6 安全な水とトイレを世界中に	田尻水道センター	14 海の豊かさを守ろう	漁業協同組合
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	関西電力	15 陸の豊かさを守ろう	産業振興課
8 働きがいも経済成長も	観光協会	16 平和と公正をすべての人に	安全安心まちづくり推進局

町役場だけでなく、地域のさまざまな企業のみなさんと協働しながら取り組みました

(4)企画・提案から実現へ

課題の設定

SDGsのグローバルな目標から田尻町の課題に焦点化し、子どもたちが感じる田尻町の課題を各グループが設定した。

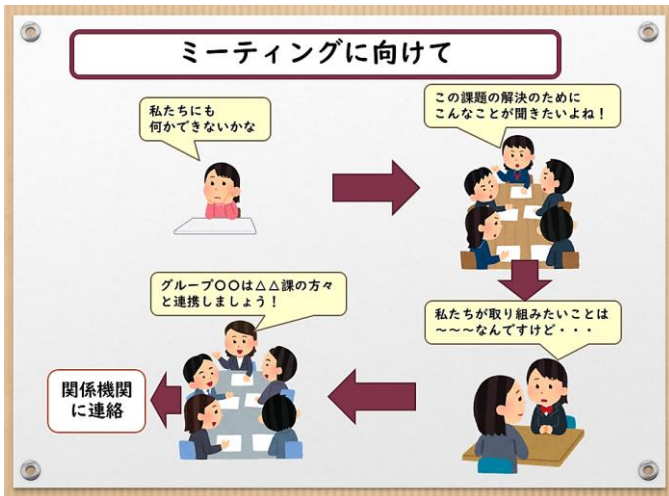
企画・提案

各グループで「1. 自分たちに今、何ができるか」、「2. 学校全体で何ができるか」、「3. 地域・役場と連携・協力して何ができるか」という視点から解決策を連携する方々に提案する。

実現

解決策を提案して終わるのではなく、実際に行動していくことが重要であると考え、各グループが実現に向けて行動に移していった。自分たちの想いが現実のこととなるという成就感から、地域社会づくりに向けて主体的に社会参画することができた。

	課題設定	企画・提案	実現
①	田尻川の水質悪化	町全体で清掃イベントを開催することで、川がきれいになるだけでなく、町全体の団結力も高めたい	SDGs田尻川クリーン作戦を開催
②	田尻町の孤食・個食	大人から子どもまでみんなで食事を囲みながら団らんできる場を提供したい	「みんな食堂」を開催
③	田尻町の認知不足	田尻町の魅力を発信できるお弁当を販売し、かつ雇用も生み出したい	SDGs弁当販売
④	田尻町にインスタ映えするところがない	田尻町にインスタ映えする場所を作り、拡散されることで田尻町をもっと知ってほしい	顔出しパネルを作成し、イベントなどで設置
⑤	まちづくりをもっと盛り上げたい	田尻町オリジナルのものを発信したい	駅前にオリジナルラッピングポストを設置
⑥	経済的な貧困より心の貧困	一人暮らしのお年寄りの方とつながりをつくりたい	民生委員児童委員さんとともに一人暮らしの高齢者宅を回るあいさつ運動を実施
⑦	児童福祉施設に本が少ない	だれでも本が読めるようにしたい	家に眠っている本を寄付してもらい、児童福祉施設に寄贈



私たちのSDGsの課題グループ 目標 () 単 位 () グループ名 ()

初めて「田尻町の課題」に気づけるか、自分たちが何を提案しよう!

「自分たちが感じる課題」を「田尻町の課題」の中から選ぶか、自分たちが提案しよう!

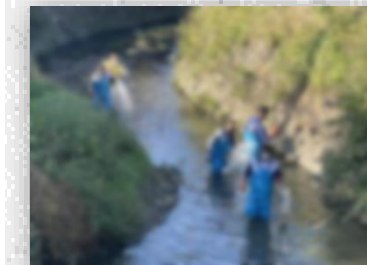
課題設定 (この場で決まらなくても、自分たちが提案しよう!)

企画・提案 (この場で決まらなくても、自分たちが提案しよう!)

実現 (この場で決まらなくても、自分たちが提案しよう!)

関係機関 (この場で決まらなくても、自分たちが提案しよう!)

ワークシートデータ →



生徒が企画・提案したことが、地域・役場との連携によって、次々と実現されていきました



(5)好循環のサイクル

生徒が学習を進める上で、これまで地域の方々から温かく見守られてきたという想いが根底にある。それを起点に、自分たちに何かできることはないかという発想に至り、役場や地域の方と協力しながら、企画・提案を繰り返すことで実現することができている。それが大きな達成感を生み、新たな想いが育まれるという好循環のサイクルを生み出すことができた。

Topics <町教育委員会による支援>

～学校のつきたい力を地域へ発信・共有～

学校のつきたい力・めざす子ども像を地域へ発信・共有することで、地域を巻き込んで取組みを進める意義を理解してもらった。教職員と役場・地域の方とのミーティングを企画し、またホームページや町広報誌で今回の取組みの進捗や成果を随時発信するようにした。



田尻町ホームページより



広報たじり11月号より



生徒の根底にある、「これまで地域の方々から温かく見守られてきたという想い」を起点に、自分たちに何かできることはないかという発想をしたことにより、好循環のサイクルを生み出したと考えられる

3. 研究の成果

(1) 生徒について

生徒の感想

- ・課題を見つけ、その解決のためにどんなことができるか考えるようになった
- ・SDGsの学習を通して、課題の解決や目標達成のためにいろいろと工夫しながら積極的に挑戦していくことで「やりぬく力」がついたと思う

…など、自分たちの思いが実現できそうだと嬉々として語る生徒の顔や、以下のアンケート結果からも、生徒の変容が見て取れる。



アンケート項目データ

アンケート項目 (肯定的回答, R4.12実施)

- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えている
65% (全国 40.8%)
- ・自ら課題を見つけて勉強している **71.3%**
(全国 58.7%)
- ・授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
国語 **90.7%** 数学 **85%** 理科 **82%**
(全国 国語 89.6% 数学 76.4% 理科 61.8%)

まず最初にご協力ありがとうございました!! 498冊も集まり、本当にうれしいです。
私は、ここで書かせてもらう内容は、「挑戦」についてです。この取り組みは、私のグループにとってはとても心配でした。本は自分の思い出の物であり、みんな寄付してくれるか……しかし、結果は大成功でした!! 本を数えているときは、涙が出てきそうなくらいうれしかったです。
私の経験談を書いただけで、何も伝わっていないと思ひで、きちんと伝えます。“挑戦にビビって何もしないのが一番ダメだ!” 何かしら自分から動かないと、世の中は何も動きません。挑戦することで、自分はものすごく成長し、みんなからはすごく応援してもらえる……挑戦、良いと思いませんか?
1年生は、まだ挑戦していない人が少なからずいると思います。私が1年生のときは挑戦にビビっていました。これを読んで、少しでも挑戦する気持ちになるなら、私は泣けてきそうなくらいうれしいです。
2年生は、うわさをきくと、SDGsの取り組みを行っているそうですね。やはり、今が挑戦するチャンスだと思います。何事にも挑戦して、みんなが助けあって、最終的には、良い結果が出ることを心の底から願っています。
3年生は………しんどいですね。実は私もつかれてます。「テスト、テスト、テスト……入試……ふ、テストめっかあるやん」となっています。しかし、それは挑戦するチャンスだと思います。挑戦をくりかえし、くりかえし自分が成長していく。みんなの応援もあり、少しずつ、少しずつ成長して、挑戦して成長していきましょう。
最後まで読んでくれてありがとうございました。どうでしたか。伝えたいことは分かってくれましたか。ちなみに私はかかれなから、挑戦していこうと思います。

▲生徒の記述より

(2) 教職員について

教職員の感想

- ・地域と密着した活動を行うことで、連携・調整に時間が割かれ、時間的な負担にはなったが、子どもたちが主体的に学ぶ様子を見たり、成長を感じられたりし、教育効果が高まったと感じている。
- ・総合的な学習の時間を中心に、子どものアイデアを尊重し、子ども主体の授業づくりを意識していけるようになった
- ・(役場や地域の方が)教職員とは別の立場として、生徒と向き合ってくれることが子どもの成長につながった

アンケート項目 (肯定的回答, R4.12実施)

【教職員】

- ・生徒にとって魅力ある学校にすることを意識している。 **96%**
- ・生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるように指導方法の工夫・改善に努めている。 **100%**
- ・総合的な学習の時間において、生徒が諸課題に対して主体的に関わる活動を行っている。 **100%**

(3) 地域について

地域の方々の反応

これまで

- ・体験活動は行っていたが、どちらかという子どもたちはお客さん
- ・学校がどんな取組みを行っているのかや、どういう力をつけたいと思っているのかがあまりわからなかった
- ・**教科学習がメイン** (テストの点数を取るため) という印象だった



現在

- ・学校理解が深まった
- ・中学校の活動がよくわかり、これからももっと関わろうと思った
- ・生徒たちの「**思いを実現させたい**」という熱意に大人も触発された
- ・中学校段階で**地域社会で起こっている課題に向き合うこと**は、とても大切だと思う
- ・学校は**社会に出て通用する力**を生徒につけたいと思っていることがわかった

(4)まとめ

2年間、カリキュラム・マネジメントに携わってみて、これまでになかった田尻町のよさや強み、「田尻町立中学校ならでは」のよさが発見できた。

カリキュラム・マネジメントを進めるには、主担当者を校務分掌に配置することが効果的であり、主担当者を中心に、PDCAサイクルを回し続ける、動き続けることが大切であるとわかった。

生徒も、教職員も、地域をも巻き込んで、PDCAを意識することで、生徒の“町に対する想い”を実現していくプロセスの中で、様々な経験ができ、それが次の課題解決、次の取組みへとつながっていった。

「生徒のために私たち教職員、地域の一員として、何ができるのか」

「生徒にどんな力をつけさせたいか」

それを常に考え、実現するために、学校が教育委員会や地域とつながることは、まさに社会に開かれた教育課程の実現と言えるのではないかな。

